

マハーバーラタの概要:マハーバーラタの主要登場人物の紹介とあらすじ

マハーバーラタ Mahābhārata. 「大いなるバラタ族(の戦いの物語)」の意. 全18編約10万詩節. 伝説ではヴィヤーサ(Vyāsa)作. 前10世紀頃に北インドのクルクシェートラでおきたバラタ族の親族間の争いを主題とする物語が吟遊詩人によって伝えられるうちに, 多くの民間説話が取り込まれて増広され, 4世紀頃に現在の形が成立した. 10世紀末頃に散文体のパルワ作品として古ジャワ語に翻訳された。

1. 登場人物(登場順と血縁関係による)

バラタ Bharata	北インドの伝説上の王. バラタ族の始祖.
ドリタラーシュトラ Dhṛtarāṣṭra	クル族の王. ハスティナープラに都を置く. パンドウの異母兄. 盲目. カウラヴァ(クルの子孫)100兄弟の父.
パンドウ Pāṇḍu	クル族の王. ドリタラーシュトラの異母弟. パンダヴァ(パンドウの子)5兄弟の父.
クンティー Kuntī	パンドウの第1妃. パンダヴァ第1-3子の母.
マードリー Mādrī	パンドウの第2妃. パンダヴァ第4-5子の母.
ユディシュティヤ Yudhiṣṭhira	パンダヴァ第1子. クンティーの子. 別名ダルマプトラ.
ビーマ Bhīma	パンダヴァ第2子. クンティーの子. 別名ヴァーユプトラ.
アルジュナ Arjuna	パンダヴァ第3子. クンティーの子. インドラ神の子.
ナクラ Nakula	パンダヴァ第4子. マードリーの子. アシュヴィン双神の子.
サハデーヴァ Sahadeva	パンダヴァ第5子. マードリーの子. アシュヴィン双神の子.
ドラウパディー Draupadī	パンダヴァ5王子の妻.
ガトートカチャ Ghaṭotkaca	ビーマと羅刹の子.
アビマンニユ Abhimanyu	アルジュナとスバドラーの子.
パリークシット Parīkṣit	アビマンニユの子.
クリシュナ Kṛṣṇa	ヤーダヴァ族のドヴァーラカー国の王. パンダヴァの味方. ヴィシュヌ神の転生.
スバドラー Subhadrā	アルジュナの妻. アビマンニユの母. クリシュナの妹.
ガンダーリー Gāndhārī	ドリタラーシュトラの妃. カウラヴァ100兄弟の母.
ドゥルヨーダナ Duryodhana	カウラヴァの第1子.
カルナ Karna	クンティーと太陽神の子. カウラヴァの味方.
シャリヤ Śalya	マドラ国の王子. マードリーの兄. カウラヴァの味方.
ドローナ Droṇa	クル族の軍師. カウラヴァの味方.
ビーシュマ Bhīṣma	クル族の長老. カウラヴァの味方.

2. あらすじ

第1編「初編」

盲目のドリタラーシュトラは弟パンドウに王位を譲ったが, 弟の死後王位に就き, パンダヴァ5王子を引き取ってカウラヴァ100王子と共に養育する. 学術・武芸においてパンダヴァはカウラヴァに優り, 両者の間に対立が芽生える(アルジュナとカルナ). 王が後継者としてユディシュティヤを指名したので, 妬んだドゥルヨーダナは陰謀によって森の中でパンダヴァを焼き殺そうとする(ビーマと羅刹女ヒディムバー). 危機を脱したパンダヴァがパンチャール国にいたとき, 王女ドラウパディーの婿選びの競技でアルジュナが優勝し, 彼女を5王子共通の妻とする(アルジュナの12年間の放浪). ドリタラーシュトラはパンダヴァを呼び戻し, 国を2分して, ハスティナープラをカウラヴァに与え, パンダヴァには新しくインドラプラスタを都として与えた.

第2編「集会編」

インドラプラスタの繁栄を妬むカウラヴァはユディシュティヤをサイコロ博打に招く. 1回目の勝負でユディシュティヤは全財産・領土・家族を失い, 妻ドラウパディーは侮辱を受けるが, ドリタラーシュトラの取りなしで和解する. しかし, 敗者は12年間に森に隠れ住み, 13年目は誰にも知られず暮らして初めて帰還できるという条件でおこなった2回目の勝負にもユディシュティヤは負けてしまう.

第3編「森林編」

パンダヴァは森林地帯をさまよい, 聖者たちと対話したり様々できごとを経験する. その間, アルジュナは神々から武器を手に入れるためにインドラ神の天界に昇る.

第4編「ヴィラータ編」

追放13年目にパンダヴァはマツヤ国のヴィラータ王のもとに身分を偽って暮らす. このときマツヤ国を攻めてきたカウラヴァを撃退するのに協力し, 13年目が過ぎてパンダヴァが正体を明かしたとき, ヴィラータ王

は彼らと同盟を結び、娘をアビマンニュの妻として与える。

第5編「戦争準備編」

パーンダヴァはカウラヴァから王位を取り返す決意を固め、両陣営で戦闘の準備が進められる。いずれにも親戚であるクリシュナは、無防備の自分か軍隊かを両陣営に選ばせ、アルジュナはクリシュナを選ぶ。最後の和平交渉が決裂しクルクシェートラで18日間におよぶ戦闘が始まる。

第6編「ビーシュマ編」

戦いに躊躇するアルジュナを御者になったクリシュナが激励する(バガヴァッドギーター)。カウラヴァの大將ビーシュマが致命傷を負う。

第7編「ドローナ編」

ビーシュマに代わったカウラヴァの大將ドローナが殺害される。

第8編「カルナ編」

ドローナに代わったカウラヴァの大將カルナが殺害される。

第9編「シャリヤ編」

カルナに代わったカウラヴァの大將シャリヤが殺害され、ドゥルヨーダナも致命傷を負う。

第10編「夜襲編」

18日目、夜の夜、ドローナの息子アシュヴァッターマンはパーンダヴァ陣営に夜襲をかける。ドゥルヨーダナの死。

第11編「女性編」

子を失ったガーンダーリーが嘆く。

第12編「平和編」

ユディシュティラがハスティナープラ国の王として即位する。

第13編「教訓編」

死の床にあるビーシュマが王としての義務などについて教訓を語り、死去する。

第14編「馬祀祭編」

ユディシュティラが馬祀祭をおこなう。

第15編「アーシュラマ編」

ドリタラーシュトラ、ガーンダーリー、クンティーは森に隠棲する。森の大火にあい死去する。

第16編「棍棒戦編」

ヤーダヴァ族は仙人の呪いによって棍棒による内戦の末に絶滅する。クリシュナも自らの使命の終わりを自覚し事故死する。

第17編「旅立ち編」

ユディシュティラは王位をパリークシットに譲り、他のパーンダヴァ兄弟と妻ドラウパディーとともにメール山頂のインドラ神の天界をめざしてヒマーラヤ山へ旅立つ。一匹の犬がつきしたがう。途中、ドラウパディー、サハデーヴァ、ナクラ、アルジュナ、ビーマが脱落する。

第18編「昇天編」

天国と地獄を見たユディシュティラは最終的に他のパーンダヴァ兄弟とドラウパディーとともに天国へ入ることを許される。

参考文献

- 青山亨 1994 「叙事詩、年代記、予言：古典ジャワ文学にみられる伝統的歴史観」『東南アジア研究』32 (1): 34-65.
- 石井米雄・他編 1991 『インドネシアの事典』京都：同朋舎。とくに「ジャワ文学」「マハバラタ」「バラタユダ」「ワヤン」の項目。
- 上村勝彦 2002-2003 『マハーバーラタ』第1-7巻(ちくま学芸文庫) 東京：筑摩書房。
- 2003 『インド神話—マハーバーラタの神々』(ちくま学芸文庫) 東京：筑摩書房。
- 菅沼晃 1985 『インド神話伝説辞典』東京：東京堂出版。
- 奈良毅・他・訳 1983 『マハーバーラタ』全3巻(レグルス文庫) 東京：第三文明社。
- 松本亮 1982 『ワヤン人形図鑑』東京：めこん。
- 1996 『マハーバーラタの陰に』増補版。東京：八幡山書房。
- 1994 『ワヤンを楽しむ』東京：めこん。
- 山際素男(訳)。1991-98. 『マハーバーラタ』全9巻。東京：三一書房。